

横浜市感染症発生動向調査報告（令和5年2月）

《今月のトピックス》

- インフルエンザが増加し、流行注意報が発令されました。A型が多く検出されています。
- 梅毒は20歳代～30歳代の若い世代を中心に、幅広い年齢層で発生しています。妊婦の報告もみられます。
- 感染性胃腸炎の報告が多く、集団感染などもみられます。
- 新型コロナウイルス感染症は減少傾向が続いていますが、引き続き今後の動向に注意が必要です。

◇ 全数把握の対象

＜2月期に報告された全数把握疾患＞

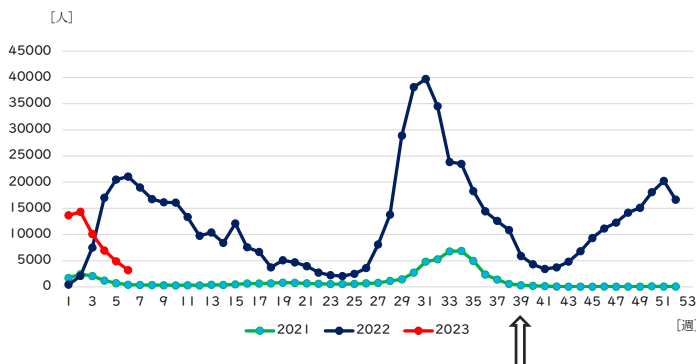
腸管出血性大腸菌感染症	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
E型肝炎	6件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
レジオネラ症	5件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	1件	梅毒	18件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	百日咳	1件

- 腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代～20歳代で、血清群O26が1件、O157が1件です。経口感染と推定される報告が1件、接触感染と推定される報告が1件ありました。
- E型肝炎**:30歳代～60歳代で、経口感染と推定される報告が3件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- レジオネラ症**:60歳代～90歳代で、塵埃感染と推定される報告が2件、水系感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- アメーバ赤痢**:60歳代で、経口感染と推定されています。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:20歳代～80歳代で、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:80歳代で、血清群A群が1件、G群が1件です。創傷感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代～60歳代で、性的接触(異性間1件、同性間1件)と推定される報告が2件ありました。
- 水痘(入院例に限る)**:50歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 梅毒**:10歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期9件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件、晩期顕症梅毒2件、無症状病原体保有者2件の報告がありました。性的接触による感染と推定される報告が16件(異性間12件、同性間2件、詳細不明2件)、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 百日咳**:40歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。

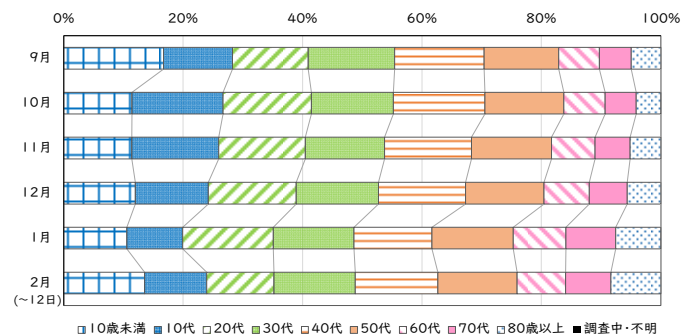
◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

2023年第4週～第6週に横浜市から報道発表がありました症例は15,053件でした。

◆ 横浜市新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>



1 報告数の推移



2 年齢層別患者割合

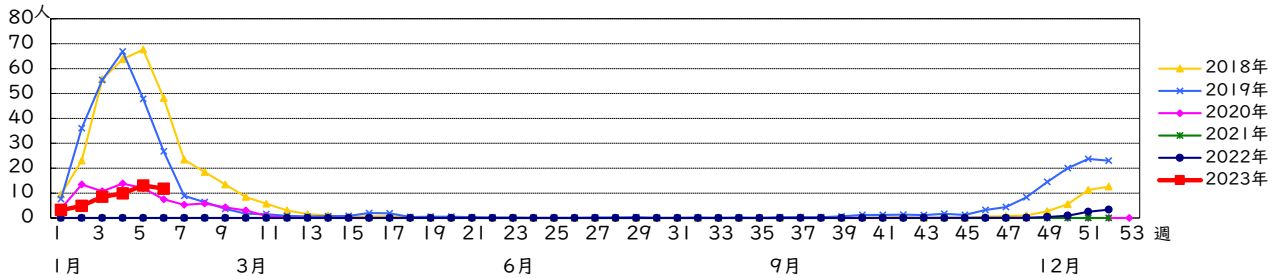
※ 2022年9月26日(第39週)より集計方法を変更しています(白抜き矢印)

報告週対応表	
第4週	1月23日～1月29日
第5週	1月30日～2月5日
第6週	2月6日～2月12日

◇ 定点把握の対象

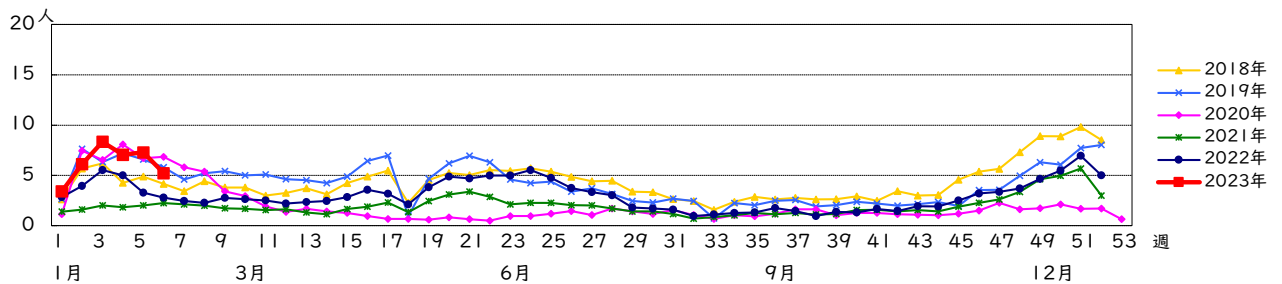
1 インフルエンザ:

2022年第46週以降増加しており、第51週に流行開始の目安となる1.00を上回り、インフルエンザ流行期に入りました。2023年第5週には13.07となり、流行注意報が発令されています。第6週は11.81です。第6週までの市内迅速キットの結果は、累計でA型99.4%、B型0.5%、A・B型ともに陽性0.1%と、A型が多く検出されています。(詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報7号をご覧ください)



2 感染性胃腸炎:

2022年第39週以降増加に転じ、2023年第4週7.06、第5週7.29、第6週5.22と推移しています。



3 性感染症(1月)

性器クラミジア感染症	男性:26件	女性:11件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:6件	女性:8件
尖圭コンジローマ	男性:4件	女性:4件	淋菌感染症	男性:14件	女性:3件

4 基幹定点週報

	第4週	第5週	第6週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.33	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(12月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	18件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2月期(2023年第4週～第7週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点35件、内科定点7件及び基幹定点1件でした。

アデノウイルス2型分離1株並びに各種ウイルス遺伝子25件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2023年第4週～第7週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ A	胃 腸 炎
アデノウイルス2型	1 -			
ボカウイルス		- 1		
ヒトコロナウイルス HKU-1	- 2			
ヒトコロナウイルス OC43	- 3			- 1
ヒトコロナウイルス NL63	- 2			
インフルエンザウイルス AH1型pdm09			- 2	
インフルエンザウイルス AH3型			- 10	
パラインフルエンザウイルス1型	- 1	- 1		
パラインフルエンザウイルス4型		- 1		
RSウイルス		- 1		
合計	1 8	- 4	- 12	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2月期(2023年第4週～第6週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、サルモネラ属菌1件でした。非定点からの依頼は、非結核性抗酸菌症(NTM)1件でした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌2件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、劇症型溶血性レンサ球菌2件でした。

「分離同定」の検査依頼は、保健所からレジオネラ属菌4件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は咽頭炎1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査（2023年第4週～第6週）

菌株同定		項目	検体数	血清型等
医療機関	基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Klebsiella aerogenes</i> (1)
		サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Java (1)
	非定点	非結核性抗酸菌(NTM)	1	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>massiliense</i> (1)
保健所		腸管出血性大腸菌	2	O26 : H11 VT2 (2)
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Klebsiella aerogenes</i> (2)
		劇症型溶血性レンサ球菌	2	A群溶血性レンサ球菌 TUT (1)、G群溶血性レンサ球菌 (1)
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	4	<i>Legionella pneumophila</i> SG1(2)、培養陰性(2)
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	咽頭炎	1	A群溶血性レンサ球菌 T9 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】